

継続こそ力 部会活動⑦

関西地区人事部会

大学と正面から向き合う 営業の厳しさも伝えます

関西地区人事部会(四十社加盟、代表幹事田島弘志コムテックス人事部長)は創立以来半世紀が経つが、「本音で大学と付き合う」ことをモットーに活動を続ける。先物業界の実態をぶつけて、大学側と真正面から向き合う―それが定着率向上につながるかと考えるからだ。

当部会は昭和五十一年五月、全国にさきがけて産声を上げた。ミスター大阪商取引と呼ばれた生田氏(多田商事)現タイコム証券II総務人事部長、現在は島実蔵のペンネームで著述業に忙しい)ら七人のサムライが集まって発足した。

信念で、段々と取り除かれることになる。マンモス校の近畿大学の就職部長が交流の場を設けるようになって、山は動いた。関西地区の各大学の就職担当に「学生をよこしてくれ」とは言いません。なぜ出さないかを話してほしい」とねばり強く説得しながら、交流会が盛り上がりつつあった。

若者たちの早期離職は、一般には上司との折り合いが悪くてやめていく例が多いが、商品先物業界では、営業の厳しさが主たる離職の理由。「いくら電話で勧誘しても断られる。電話口で怒鳴られることだって珍しくない。親に怒鳴られたことのないのにお客さんに怒鳴られたとショックを受ける新人社員もいます」と田島代表幹事。

そんな若者を「やわい」と責めることはできても、彼ら現代っ子は企業が期待するほど打たれ強くはない。

寿秋良知副代表幹事(アルフィックス人事課長)は口八



生田 一氏

「旗上げは全国一早かったかも知れませんが、大学との懇談会開催は東京より半年遅れてスタートしました」と生田氏。当時、大学は商品先物を蛇蝎のように嫌い、先物業界からの呼び掛けは一切応じようとはしなかった。仮に学生が商品先物に内定したとしても「やめとけ」と断られた時代である。

その厚い壁は生田氏ら先人たちの「本音でぶち当たれば、道は通じる」との堅

平成13年度 関西地区商品取引員
大学別新卒入社実績ランキング(人事部会調べ)

大学名	男子	女子	合計
1 近畿大学	41名	4名	45名
2 大阪産業大学	19	0	19
3 関西学院大学	16	3	19
4 京都産業大学	16	3	19
5 関西大学	16	1	17
6 奈良産業大学	17	0	17
7 立命館大学	12	4	16
8 大阪経済大学	15	0	15
9 大阪学院大学	12	1	13
10 大阪商業大学	13	0	13
11 神戸学院大学	11	2	13
12 追手門学院大学	11	1	12
13 京都学園大学	11	0	11
14 滋賀大学	7	2	9
15 同志社大学	7	2	9
16 大阪経済法科大学	7	1	8
17 関西外国語大学	4	4	8
18 京都外国語大学	4	3	7
19 和歌山大学	5	1	6
20 阪南大学	6	0	6

「学校の就職部、学生さんの先物取引についての認識の度合いは東京と大阪で格別違いがあるわけではございません。しいてい

えは、関関同立がこの業界に厳しい点くらいですかね」

学生の就職部離れ

「関関同立」とは関西学院、関西大学、同志社、立命館の名門四私大のことだが、いまでも先物会社の求人票をかたくなに拒んでいる。それでも現実には関関同立の出身者はほとんど先物業界に入っている。

それは学生の就職部離れが目立ってきた証明でもある。インターネット等で企業情報を入手し、自己責任で先物業界入りをめざす若者が増えてきているのだ。こうした就職戦線の風向きの変化を敏感にキャッチした当部会の面々は、毎年初めに開いてきた大学と業界の懇談会で一つの冒険を試みた。

例年、学識経験者を起用しての先物PRが定番になっていたが、これをやめ、内定学生、先輩社員各二名を交えたパネル討論に踏み切った。

「本音で大学と付き合う」という当部会の発足の原点に立ち返って、ありのままの姿を見せる―それが他業種に比べて陥没的な低さの定着率を改善させる王道であると衆議一決したのだ。

「本音、ビデオを制作

いま二百五十万円の予算をかけて採用ビデオを制作中である。シカゴ大学のベッカー教授なども起用するが、学校や学生たちに耳ざわりのいい話だけで構成されたものにはない考えた。辛口コメントも挿入された。本音ビデオに仕上がるはずである。

わが国先物取引発祥の地大阪は「ホンネ」の町でもある。厳しい営業体験を乗

り越えていま採用活動に駆けずり回る関西人事部会のリーダーたちは最後にきつぱり口を揃えた。「商品業界のさらなる発展と啓蒙のために努力を惜しまず、真正面から本音で活動していく決意である。」

日経新聞朝刊に注目! 毎週木曜の国際面に掲載

<p>確かな未来へ、商品先物取引 シリーズ⑮</p> <p>エコノミスト 紺谷 典子</p> <p>商品先物は一般の人にはなじみにくい印象でしたが市場のルールが整って参加しやすくなりました。</p> <p>JCFIA 日本商品先物振興協会 http://www.jcfia.gr.jp/</p> <p>商品先物取引権限 洲上久義さん 「公正と信頼をみんなで作る先物市場、先物取引」</p>	<p>確かな未来へ、商品先物取引 シリーズ⑭</p> <p>宮崎 隆子 主婦</p> <p>商品先物取引を始めたら世界経済などいろいろ勉強することが多くて資産運用というよりアママの運用という感じです。</p> <p>JCFIA 日本商品先物振興協会 http://www.jcfia.gr.jp/</p> <p>商品先物取引権限 小島俊明さん 「経済を肌で感じてみませんか？」</p>	<p>確かな未来へ、商品先物取引 シリーズ⑬</p> <p>ファイナンシャルプランナー 紀平 正幸</p> <p>上場商品の品目がバラエティ豊かになりました。投資のリスク分散をしやすいう環境が整ってきたというところでしようか。</p> <p>JCFIA 日本商品先物振興協会 http://www.jcfia.gr.jp/</p> <p>商品先物取引権限 山田芳文さん 「新規銘柄、上場ラッシュ、先物取引時代の到来」</p>	<p>確かな未来へ、商品先物取引 シリーズ⑫</p> <p>ファイナンシャルプランナー 紀平 正幸</p> <p>資産管理に見直しを迫るペイオフ解禁。商品先物取引を検討してみろなど、運用に幅広い選択肢も必要になってきました。</p> <p>JCFIA 日本商品先物振興協会 http://www.jcfia.gr.jp/</p> <p>商品先物取引権限 中安公理さん 「金融ビッグ版 先物市場がマネーを動かす」</p>	<p>確かな未来へ、商品先物取引 シリーズ⑪</p> <p>経済評論家 木村 佳子</p> <p>リスク管理が今の時代のキーワード。問題は、どう取り組むかです。商品先物取引にはそのノウハウが集積されています。</p> <p>JCFIA 日本商品先物振興協会 http://www.jcfia.gr.jp/</p> <p>商品先物取引権限 松下和弘さん 「歩み出すリスク管理に未来あり」</p>
<p>第15回 5月2日</p> <p>確かな未来へ、商品先物取引 シリーズ⑳</p> <p>経済評論家 杉村 富生</p> <p>現在、商品先物の所得は申告分離課税扱いです。株などの所得と損益通算できるようになると、さらに魅力的ですね。</p> <p>JCFIA 日本商品先物振興協会 http://www.jcfia.gr.jp/</p> <p>商品先物取引権限 鈴木佐知子さん 「株式ではありません。商品先物取引です。」</p>	<p>第14回 4月25日</p> <p>確かな未来へ、商品先物取引 シリーズ⑱</p> <p>経済評論家 杉村 富生</p> <p>リスクがとれる範囲内で資産を運用する。自己責任の原則を守ってこそ、商品先物取引です。</p> <p>JCFIA 日本商品先物振興協会 http://www.jcfia.gr.jp/</p> <p>商品先物取引権限 原 秀好さん 「オーダーは、あなたの意志で判断で」</p>	<p>第13回 4月18日</p> <p>確かな未来へ、商品先物取引 シリーズ⑱</p> <p>経済評論家 杉村 富生</p> <p>法に基づき自主規制機関を中心に、信頼性向上のために業界が一丸となって取り組まれているのは頼もしい限りです。</p> <p>JCFIA 日本商品先物振興協会 http://www.jcfia.gr.jp/</p> <p>商品先物取引権限 鈴木康友さん 「21世紀"信頼"と秩序が生む先物取引新時代」</p>	<p>第12回 4月11日</p> <p>確かな未来へ、商品先物取引 シリーズ⑰</p> <p>エコノミスト 紺谷 典子</p> <p>なじみのない市場には不安が大きいものです。情報開示をさらに進めて親しめる市場にして下さい。</p> <p>JCFIA 日本商品先物振興協会 http://www.jcfia.gr.jp/</p> <p>商品先物取引権限 村越悦夫さん 「先を競い、パートナーは取引員、信頼あらば、リスクはうまる」</p>	<p>第11回 4月4日</p> <p>確かな未来へ、商品先物取引 シリーズ⑯</p> <p>エコノミスト 紺谷 典子</p> <p>手数料を完全に自由化するなど投資家の視点で改革を進めることが市場の活性化につながります。</p> <p>JCFIA 日本商品先物振興協会 http://www.jcfia.gr.jp/</p> <p>商品先物取引権限 陳 麗照さん 「輝く未来は、顧客と共に」</p>
<p>第20回 6月6日</p>	<p>第19回 5月30日</p>	<p>第18回 5月23日</p>	<p>第17回 5月16日</p>	<p>第16回 5月9日</p>